

	評価項目	重点目標	重点目標に関する取組と指標 ○：取組 ★：指標 ▽追加事項	中間	期末 ◎：評価 ◆：次年度への改善策
カリキュラムマネジメント	確かな学力の育成(教育委員会設定項目)	自ら学ぶ姿勢の育成と学力向上を図る	○各学年の発達段階に応じた家庭学習の習慣化を図り、学力の向上を図る。 ★家庭学習ノートの点検、活用を図り、家庭学習を習慣化する。全国学力調査、東京都学力調査の結果および学校独自に実施する年度末到達度テストの結果を検証する。 <中間評価を受けての追加事項> ▽ 家庭学習の定着と同時に、授業の質を向上させていく。	家庭学習の定着について 1年生・・・家庭学習ノートの点検と課題の提出によって成果を上げている。今後は課題を与えず予習腹中ができるよう指導する。2年生・・・1学期間は全員の点検指導を行ってきたが、2学期より希望者のみとしてより自発的な学習を指導していく。	◎家庭学習ノートを使った自主的な家庭学習の実施は一定の成果が上がっている。 ◆ICT機器を使った発表活動等については、授業の中および牛一ネオタイム等で活用の機会を増やしていくことが課題である。シラバスを改訂したので、年度はじめの教員研修で共通に取り組むべき表現力の育成とともに ICT 機器の活用について確認し実施していく。
	豊かな心の育成(教育委員会設定項目)	全校体制の教育活動を通して、生徒の自主性を育て、認め合う集団を作る	○学校生活のあらゆる場面での挨拶と時間を守る指導の徹底とともに、生徒の自主活動を進め一人一人を認め合う雰囲気作りを進める。 ★毎朝のあいさつ運動、生徒会中心のボランティア活動や清掃活動を実施する。 <中間評価を受けての追加事項> ▽	あいさつについては、校長講話や生活指導部からの指導によって、一定の評価を得ているが、今後は、道徳での扱いやあいさつ検定の導入を考えていく。	◎時間を守る指導は成果が表れており、行事等での5分前集合ができるようになった。また、生徒会中心の地域清掃やボランティア活動の拡充が図れた。 ◆あいさつへの意識が大人と子供では食い違いがある。一定の基準を設けてあいさつの意識向上を図ることが必要である。また、登校時間が守れない点は、家庭と連携して徹底を図りたい。
	体力の向上(教育委員会設定項目)	自ら健康促進を意識して実践できる生徒を育成する。	○食と運動の重要性を理解させて、自ら健康促進を実践する生徒を育成する。 ★食育チームによる食育、ティームティーチングによる体育授業、宿泊行事での体験活動などを実施し、生涯体育への意識向上、健康促進の実践につなげる。 <中間評価を受けての追加事項> ▽	全校給食での食育を実施している。教科や委員会活動でも取り上げてきたい。また、3年生の修学旅行での食文化学習は評価が高かった。1年生の時から継続的な食育の成果と思われる。	◎食と運動のバランス、日常の規則正しい生活について指導し、概ね健康促進を実践する生徒に育っていると考える。 ◆次年度の「オリンピック・パラリンピック教育推進校」としての取り組みを活用して、体力向上や健康促進への意識を高めていきたい。
	特色ある教育(教育委員会設定項目)	総合的な学習の時間において、思考力、判断力、表現力の伸長を図る	○自ら課題を見つけて探求する姿勢を育て、その成果を的確に発表したり、日々の生活生かしたりする生徒を育てる。 ★「牛一ネオタイム」を身につける力を明確にして実施し、特に表現力の育成を図り、年度末に全員の研究成果の発表を行う。 <中間評価を受けての追加事項> ▽	牛一ネオタイムは後期に活動が行われるため、今後の指導で成果を出していく。	◎一中ネオタイムのプレゼンテーション能力の育成では、年々レベルアップしている。 ◆一中ネオタイム全体のレベルアップを図るために、チューターへの指導、1年生の課題設定オリエンテーションの充実を図る。
組織マネジメント	計画・実施・評価・改善の展開	組織的な教育活動を実施し、年2回の評価によるPDCAサイクルの実効性を高める。	○各分掌の業務内容を組織として管理し、年2回の学校評価の結果から改善のスピードアップを図る。 ★生活指導部の「教育相談部会」を新設、昨年度立ち上げた経営支援部の充実を図る。学校評価を7月に実施し、改善結果を2月の学校評価で検証する。 <中間評価を受けての追加事項> ▽	7月に実施した自己評価と学校関係者評価を分析し、課題の早期解決案を提示したので、2学期以降それを実施し、成果を出したい。	◎7月と2月の2回学校評価を実施したことで、改善のスピードが上がっており、年度内に修正及び進展が図られた。経営支援部の活動が軌道に乗っている。 ◆学校での取り組みが地域や家庭に浸透するように広報活動に力を入れていきたい。
	児童・生徒、保護者、地域の理解と対応	保護者や地域の声を学校運営や教育活動に生かす	○地域協働学校準備校として、地域協働学校運営協議会とともに、学校運営や教育活動を進める。 ★既存の地域との関わりを整理し、教育活動との関連を強める。 <中間評価を受けての追加事項> ▽	毎月、準地域協働学校運営委員会を行って、既存の地域との連携事業について検証を進めている。今後も継続的に行っていきたい。	◎準地域協働学校運営協議会を実施し、計画的に準備することができた。 ◆地域との連携事業について整理し、広報することで、生徒も保護者地域住民がそれぞれ認識を深められと考える。